

合は更に高く、七五五%にもほり(表Ⅱ)、そのうちでも市街地の調査のみに限ってみると、八五二%と異常に高い値を示しています。日々の生活に欠かす事のできない飲料水について、市民がこれほど大きな不安を抱いているという事は、極めて重大な事態であるといつても過言ではないでしょう。

ロ。水道水利用者と井戸水利用者を比較してみると、(表Ⅱ)水道水利用者の七五五%が不安を抱いているのに対し、井戸水利用者は四三〇%と、それ程高い値を示しておりません。これは矢張り前者が日々の生活を通じて、いやでも水の問題を考へさせられているのに反し、後者は、まだまだ大丈夫という気持ちの強いものと思われます。

Ⅲ 質問三及び四について

イ。表Ⅰを見ると、全回答者の六一%が、最近飲料水の味や匂いに異常を感じていると回答しています。更にこれを水道、井戸で比較してみますと(表Ⅱ)前者は七三九%に対し、後者は二五一%と実に極端な違いがあることがわかります。

ロ。味や匂いの変化のうち、薬くさいと答えた者は、八〇一% (表Ⅱ水道水) と最も高く、どぶくさいが四八一%、かびくさいが二一、五%でした。(これら

の勇は全回答者に対する割合を示しています) 薬くさい、という回答がこれ程高いのは、矢張り極度に汚染した水を水道水として利用できるまでに処理する過程で、莫大な量の各種薬品を投入しているためと思われる。 (一説によると、塩素の使用量は十年前の十数倍になっているといわれています) 市民の多くは、このような大量の薬品の使用に対して、強い不安を抱いていると想像され、県及び水道事務所管理者の責任は極めて大きいと言えるでしょう。

また、かびくさいという回答は二〇、五%と低い値にとどまりましたが、もしこの調査が五、六月に実施されたとしたら、或いはもっと高い値を示していたかもしれません。

Ⅳ 質問五について

家庭で飲料水に何らかの対策を講じている人は四八%、そのうち水道水の利用者についてみると五八%、井戸水については一九七%でした。(表Ⅱには記載してありません) 主な対策を水道水についてみると(表Ⅱ)浄水器三七、二%、湯ざまし三三、二%が主なものですが

二〇%近くの人が井戸を掘りたいと回答しています。せっかく水道を引いているのに、その上巨額の費用